報　告

令和４年度魅力ある府立高校づくり懇話会の主な意見まとめについて

令和５年６月８日
高校改革推進室

１　魅力ある府立高校づくり懇話会

(1) 設置目的

社会の変化等に対応した高校教育を推進する望ましい府立高校の在り方について、広く意見を求めるために、外部有識者会議を設置。

(2) 委員構成

令和４年11月10日設置　計12名
（委嘱期間　令和４年11月10日～令和５年５月31日）

氏　名	役　職　等
安藤　ゆかり	キャリアコンサルタント
石井　英真	京都大学大学院准教授
梅西　綾子	京都府立高等学校ＰＴＡ連合会副会長
奥村　久夫	向日市立勝山中学校長
岸田　敏明	京都府立綾部高等学校長
出藏　裕子	京都府ＰＴＡ協議会理事
中垣　ますみ	京都教育大学教授
原　清治	佛教大学副学長　［座長］
深尾　昌峰	龍谷大学副学長
増田　恒	京都府立桃山高等学校長
松本　明彦	京丹後市教育委員会教育長
吉川　康浩	京都市立桂川中学校長

※敬称略・50音順（役職等は委嘱時点）

(3) 開催経過

会　議	主　な　内　容
第１回 令和４年11月10日（木）	■懇話会の設置（座長選出等） ○魅力ある府立高校づくりに向けて
第２回 令和４年11月28日（月）	■主な論点に基づき、各回において意見を聴取 ○多様な生徒のニーズに対応する各課程における役割や望ましい教育環境について
第３回 令和４年12月27日（火） **第４回** 令和５年１月24日（火）	○全日制課程における学科の役割や望ましい配置について
第５回 令和５年２月28日（火）	○地域の実情等を踏まえた府立高校の在り方について
第６回 令和５年３月20日（月）	○各回における主な意見のまとめ等について

(4) **懇話会における主な意見のまとめ**

別紙のとおり

2　今後の予定

令和５年	９月議会目途	懇話会での意見等を踏まえて、魅力ある府立高校づくりに関する基本計画の中間案について報告
	10月頃目途	中間案に対するパブリックコメント及び説明会を実施
	12月議会目途	基本計画の最終案について報告 スクール・ミッション（各高校の社会的役割）の再定義についても併せて検討
	12月頃目途	教育委員会において基本計画を策定
	基本計画策定後	段階的に地域別の実施計画を策定・公表

別　紙

令和４年度魅力ある府立高校づくり懇話会　主な意見まとめ

論点・視点	主な意見や提言等
■多様な生徒のニーズに対応する各課程における役割や望ましい教育環境 ・多様なニーズの現状と課題 ・必要な教育環境	・定時制・通信制課程は勤労青年が学ぶ場から、不登校などの様々な背景のある生徒が多く学ぶ場へと変化しており、その実態を踏まえた検討が必要である。 ・不登校経験のある生徒や特別な教育的支援が必要な生徒、コミュニケーション面で課題がある生徒、経済的に困難な状況にある生徒など多様な生徒が、安心して学び、社会的自立に向けた力を養える教育が必要である。 ・フレックス学園構想によって設置された清明・清新高校は、通級による指導も取り入れた丁寧な指導によって、不登校経験のある生徒たちが順調に高校生活を送っているなど、非常に有効に機能している。 ・通信制課程はスクーリングも少ないなど、学習面での自由度が高く選択はしやすいが、生徒自身が計画を立てて学ぶ必要があり、自学自習のための力不足で途中で辞めてしまう生徒もいる。そのため、公立の通信制課程の在り方は検討すべきである。 ・高校入学直後から、生徒が自身の進路と将来を主体的に考えて、高校卒業後のステップを選択する意識を醸成することが求められる。 ・社会経験や生活体験が乏しい生徒にとっては、学校での教育活動における様々な体験が重要である。スクールカウンセラーやまなび生活アドバイザーの充実などによって対面で生徒に寄り添い、学ぶきっかけを作ることが必要である。 ・基礎的な学力が十分に定着していない生徒が安心して学べる場が必要である。一方で、ギフテッドのような特別な能力のある生徒を伸ばすといった視点も必要ではないか。 ・特別な支援を必要とするなど、様々な学びのニーズや実態に応じた適切な学びが選択できることが望ましい。 ・特別支援教育の視点は重要であり、教員研修等の取組も必要である。

論点・視点	主な意見や提言等
	・全日制・定時制・通信制の全課程において、生徒たちが学び続けることができる柔軟なシステムやサポートが必要であり、フレックス学園構想の理念や成果を展開していくことが重要である。 ・全日制・定時制・通信制の課程間での併修や、通信制課程において、通信教育で学ぶだけでなく、通学を組み合わせることなどといった新たな手法も考えられる。 ・教科学習以外の様々な教育活動等によって、生徒自身が将来を考えるキャリア教育を充実させることや、学年制など既存の枠にとらわれないような自由な履修の在り方も考えられる。 ・不登校経験のある生徒にとっては、学校・クラスといった基礎集団による居場所が１つしかないことは厳しいことである。オンライン上などを含めて学校内外での居場所を複数化していくことが重要である。 ・全日制課程では学び直しや難関大学受験を目指す生徒など、様々な生徒の実態や希望進路に対応できる多層的な学習環境が求められる。 ・夜間定時制課程では在籍生徒数が減少し、集団での教育活動や部活動が十分に成立しない状況が課題になっている。高校卒業後の社会性を身につけるためには、丁寧な指導とともに一定の集団規模による教育環境が必要である。

論点・視点	主な意見や提言等
■全日制課程における学科の役割や望ましい配置（普通科・普通科系専門学科） ・学科の現状課題と役割 ・地域性を踏まえた役割と配置 ・普通科の魅力化	・圧倒的に多くの子どもが普通科に入学している実態を踏まえると、授業や教育内容などの教育活動の特色によって学校選択ができるように、普通科の特色化は進めていくべきである。 ・普通科には、学校ごとに様々な名称のコースがある。また、普通科系専門学科も混在し、中学生や中学校教員等にとって分かりづらいため、高校側から教育内容を明確に見せていくことが必要である。 ・普通科においては、一般教育の役割として、全人的な教養、人間的な成長や生き方の幅など、共通のコアをしっかりと保障していくべきであり、その核心部分は地域性に関係なく重要である。 ・普通科系専門学科では、探究学習に対する意欲や目的意識を明確に持って入学を希望する生徒が多い。国の指定事業の活用によって、併設の普通科と合わせて特色的な探究学習を進めることもできる。 ・中学校の進路指導においては、中学生や保護者は、高校選択の要素として高校卒業後の進路状況を重視している。交通の利便性が高く、選択できる高校の多い地域では、子どもたちの学力面との関係性もみられる。 ・教育活動において、地域との連携は大事な要素の１つである。普通科において、地域の担い手育成につながるようなキャリア教育や、地域資源を生かした探究的な学びの視点を取り入れることも考えられる。 ・学校数が少ない北部地域では、１つの学校において普通科の中に複数の特色を持たせて、複数の役割を担うことで、様々なニーズに応えていくことが重要である。 ・中学生段階では、高校で何を学びたいのか、将来どうしたいのかを決められないまま高校へ進学する生徒が多い。普通科の中での特色については、細分化しすぎず、少し大きなカテゴリーで検討する方が望ましい。 ・普通科のコース設定等については、高校卒業後の進学先での学びや、大学卒業後の仕事へのレディネスにつながる具体的な教育内容を明確にする必要がある。本質的な普通科の特色化を進めるには、キャリア教育を軸とした視点が必要である。

論点・視点	主な意見や提言等
	・変化の激しい現代社会においては「主体的に生きるための総合力」を身につけることが必要である。これからの普通科では、大学ではできないような自由な学びの体験や、生徒が自分の人生に関わる初めての選択をするための３年間といった考え方がより大切である。 ・地域における教育の核としての役割を高校が果たしていく中で、普通科の特色が生まれることもある。地域との連携を通して小・中学校での学びを深めていくような特色の在り方も考えられる。 ・普通科を魅力化していく視点として、進学指導、国際教育、ＩＣＴ教育、キャリア教育などの様々な要素が考えられる。
■全日制課程における学科の役割や望ましい配置（職業学科・総合学科） ・学科の現状課題と役割 ・求められる役割と学びの特長 ・地域社会との連携	・中学生段階では将来を描ききれず、大学まで進んでから自分の適性を探したいという意識を持つ生徒が多いので、高校選択時に職業学科を選択することは難しい面もある。 ・中学生や保護者、中学校教員には、職業学科や総合学科の教育内容、進学・就職先に関する情報や魅力が十分に伝わっていないため、特に説明会やオープンスクール等において高校側からの積極的な発信が重要である。 ・総合学科では、様々なニーズを細分化し、自由なカリキュラムや少人数講座にできることなどがメリットであるが、教員体制の整備など、学校運営の難しさがある。 ・大学生の様子を見ると、専門学科出身の生徒が大学での学びにおいてよく伸びているように感じる。吸収力の高さや、現場感のようなものを大切にできる感性を学びに活かしている。 ・高校段階の職業教育、キャリア教育に求められる役割は、生徒がトライアンドエラーを経験して自分の適性を具体的に見つけられるようにしていくことである。また、トライアンドエラーによって、生徒自身が適性に応じた進路を柔軟に選択できることも重要である。 ・高校段階で本格的に将来の選択をする生徒たちを、しっかりと伸ばして社会につなげていくことが重要である。課題研究などにおいて、１つのものを突き詰めることや、社会に目を開かせ、実社会とのつながりを意識して高校段階から様々な経験を積ませることが重要である。

論点・視点	主な意見や提言等
	・職業訓練的な学びではなく、大学や産業界の研究とも連携した価値を創造する学びの視点で、実社会で求められる実践的な能力を育てていく視点が必要である。 ・職業学科には、普通科と同様に大学進学も保障しつつ、専門的な「実力」を身につけられるカリキュラムが求められる。高校段階での起業など社会とのつながりを持つような並行キャリアの可能性もある。 ・ＰＢＬ、探究学習、ＳＴＥＡＭ教育やＤＸなど、社会とのつながりを追究する視点において最先端を行くのが職業学科である。 ・職業学科の高校が、地域社会の最先端を担う、未来を感じさせる場として、地域や保護者を巻き込んでいくことも重要である。 ・農業は今後の成長産業であり、バイオやデータとつながることで、非常に大きな可能性がある分野である。大学でも実学的な農業への人気が高まっており、ＩＣＴを掛け合わせたスマート農業への展望もある。 ・職業学科の特色として、寮の存在は魅力の１つであり、寮生活を通じて身につけられる社会性など、教育的な意義もある。 ・職業学科については、量的に多く設置することよりも、センター機能的役割を持つ各職業学科の高校が、高いレベルの教育内容や実践を発信し、学校間で連携することなどが考えられる。 ・地域産業との連携を通して、将来を見据えたキャリア教育を行うことで、生徒自身がキャリアデザインを進め、卒業後の具体的な進学や就職につなげていくことが重要である。 ・北部地域では以前から、職業学科で専門性を高めた生徒が即戦力として地元企業に就職するなど、地域社会において重要な役割を果たしてきている。 ・職業学科等では、教員を支える仕組みも重要である。社会状況の変化によって、社会的資源とのネットワークやマッチングが必要であり、教育コーディネーターのような存在が非常に重要である。

論点・視点	主な意見や提言等
■地域の実情等を踏まえた府立高校の在り方 ・生徒にとって魅力と活力ある教育環境（教育の質の確保） ・各地域における府立高校が果たすべき役割と適正な配置	・高校は自立した社会人に向けた最終段階、学校行事等において協働して取り組むことができる最後の場となるので、心の成長において非常に重要な時期である。 ・これからの社会に必要な人材像、能力は明らかに従来と違っており、答えがあるものにしか対応できないような教育ではなく、これからの社会に求められる資質や能力に照準を合わせ、想像力や将来を生きていくために本当に必要な力を身につけさせる必要がある。 ・子どもたちは、高校に対しては中学校よりも、学習内容の専門性や専門的な施設設備等の教育環境、学校規模といった要素でのグレードアップを求めており、大きな集団による大規模な学校行事や部活動などで切磋琢磨できることが重要である。 ・同じ目的をもって学びを進める生徒同士が集って、刺激を受け合うところに、高等学校の存在意義がある。 ・小規模校では、手厚く指導できる部分もあるが、クラス替えがないなど、生徒同士が人間関係で支障が生じた場合に不安定になるといった側面もある。一定数による集団であることで、多様な意見や発想を共有しながら学ぶことができる。 ・高校が果たすべき役割として、生徒たちをどのように実社会と接続させるか、人間性や社会性、キャリアデザインをどう身につけさせるかといった観点が重要である。高校教育としての質を確保するためにも、一定の集団規模が必要である。 ・適正な規模の在り方は、学習面、社会的な活動、ケアの部分など、学校としての機能や役割ごとに分けて考えることも重要である。 ・教員数は学校規模に応じて決まるため、小規模化によって教員数が減ることによって、教育の質や多様な進路保障に関わる支障が生じることにもなる。 ・人口減少の中では高校だけでなく、まちの在り方などを含めて、創造的な縮小という観点で、生徒や地域社会を中心に置きながら府立高校の在り方を考えていくことが必要である。 ・高校の存在意義や役割等は、地域政策などともつなげて検討していくことが重要である。

論点・視点	主な意見や提言等
	・府立高校と地域の小・中学校の連携や交流を進めることによって、高校生の姿や高校でのリアルな教育内容を発信していくことも重要である。 ・子どもたちのニーズと地域性に合った高校づくりという視点で、学校の再編や存続の必要性を検討していくべきである。 ・府立高校だけでなく、市立高校や私立高校も含めた設置者全体で、生徒減少等の課題を考えていくべきである。府内の高校全体で検討することで、子どもたちの将来につなげていくことが重要である。 ・通学時間は子どもたちにとって大きな要素である。通える範囲の地域において、子どもたちのニーズに合った選択肢があることが重要である。 ・望ましい規模については、それぞれの地域特性を考慮しながら議論していく必要がある。生徒数の減少スピードなど、地域ごとのタイミングを見極め、優先順位をつけて検討することも必要である。 ・南部地域では、各高校が専門的な要素を特色化していくことも考えられる。北部地域では、地域課題に応えることや多様性を担保するような学校づくりが重要である。 ・学校数が多い南部地域では、一定の規模をしっかりと確保していくことが重要である。現在４クラス規模の学校も存在するが、本来は６クラスから８クラス程度が望ましい規模と考えられる。 ・北部地域では、交通利便性の課題や学校間が離れているなどの事情がある。多様な学びができる程度の学校規模がないと、子どもたちが求める学びが保障できないことになる。小規模な学校だけが点在することになれば、高校教育としての教育効果も上がらなくなってしまう。 ・北部地域では、人口減少をチャンスに変える発想で府立高校の再編をしていくことも必要ではないか。小規模な中でも、多様性を認め合いながら創造的に現代社会に必要な力を涵養していけるようなモデルを創り出していく発想も重要である。

論点・視点	主な意見や提言等
	・地域リソースを高校教育に活用しやすいメリットが北部地域にはある。教育政策として、地域の活性化につなげて学びながら、最終的には生徒ファーストの視点で生徒の自立につなげていくことが重要である。 ・北部地域では、例えば拠点校を設置し、複数校が合同でオンライン授業や拠点校での対面授業を行うというようなこれまでにない考え方をもって新たな枠組みを検討していくことも重要である。
■その他、魅力ある府立高校づくりの方向性	・特色化においては、生徒たちが本当に行きたいと純粋に思える高校づくり、魅力化を進めることが重要である。 ・学校の魅力化を部活動や学校行事のみで高めていくには限界があり、教科や総合的な探究の時間等における学びの意義を見直し、活気のある学校にしていくことが必要である。 ・ＩＣＴ活用を進めて府立高校としての共通のコンテンツを利用できるようにしたり、普通科と職業学科で学科間の交流やプロジェクトを実施したりするなど、府立高校を１つの学習集団やコンソーシアムのような形でつないでいくことも有効である。また、地域社会での探究活動や、他府県の高校とのオンラインでの連携など、学校の枠を越えた様々な資源とも幅広くつながっていくことも重要である。 ・少子化が顕著な北部地域では、府内留学も検討できるのではないか。農業や水産業等は、衰退させてはいけない産業分野であり、重要な学びの要素も多くある。生徒間交流による教育的な効果も期待でき、寮の整備なども含めて検討できるのではないか。 ・大学や企業等、地域の社会資源との連携の中で実社会の経験を積むなど、アカデミックなレディネス、キャリアのレディネスにつながる学びや教育活動を展開すべきである。 ・一部の市町では、地域コーディネーターを当該市町内に所在する府立高校に配置している例がある。地域の資源を活用して、高校生の意識の変化や気づきを促し、高校と地域社会の架け橋としての役割を担っており、その取組は非常に有効である。

論点・視点	主な意見や提言等
	・魅力ある高校に中学生段階から入学したいというニーズに応えるために、中高一貫教育校を充実させることも考えられる。また、府内には大学が多く存在するため、中・高・大までの接続による学びのデザインも考えられる。 ・生徒や保護者にとって、新しくきれいに整備された学校に対して率直に魅力を感じるので、空調やトイレなどの学校施設・設備を整備することは重要な要素の１つである。 ・スクール・ミッションとスクール・ポリシーを策定し、それぞれの学校の特長や魅力を中学生や保護者にわかりやすく発信していく必要がある。 ・現在の入学者選抜制度は、何度もチャンスはあるが、一方で中学生や保護者にとっては分かりにくい制度でもある。 ・高校入試制度において、生徒の多様性を踏まえ、検査科目を選べたり学力検査以外にウェイトを置いたりするなど、生徒それぞれの特性や特長を活かせるような仕組みづくりを検討することも重要である。